

# 大阪赤十字病院 国内外の救援活動 2015



フィリピン・キノ



パキスタン・アボタバード



ウガンダ・カロンゴ



マレーシア・クアラルンプール



パキスタン・ベジャワール



ウガンダ・パデル

これほど進歩とか文明が口にされる時代でありながら、  
戦争は必ずしも避けることができない。  
だからこそ人道と真の文明の精神を持って戦争を予防し、  
少なくともその恐ろしさを和らげようと  
根気強く努力することが急務ではないだろうか。

アンリー・デュナン(1828-1910)

ウガンダ・カロンゴ

## 国際医療救援部

INTERNATIONAL MEDICAL RELIEF DEPARTMENT

# 災害時の大阪赤十字病院の機能について

大阪赤十字病院は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命のもと、また災害拠点病院として、大規模な災害時には救護活動を行うとともに、いかなる規模の災害であっても病院機能の維持と被災患者の受け入れに最大限の努力を行い、地域における医療活動の中心を担う任務があります。そのため、日常より災害に備えて対応すべく、数々の対策を講じて病院機能の維持に努めています。ここではその機能の一部について紹介します。

## 建物の構造

診療機能に関するすべての建物は阪神大震災クラス地震に耐えられる構造となっています。本館は制震構造であり、建物の骨格部分に揺れを抑制する直径28センチのダンパーが1階から10階まで計40本設置され、建物に伝わる地震の揺れを吸収する構造となっています。

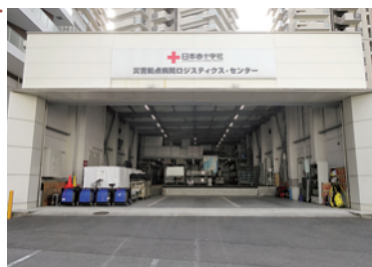


制震ダンパー／シリンダーとピストンで振動エネルギーを吸収

## ロジスティクスセンター

ロジスティクスセンターは災害対応専用の倉庫で、災害時の診療用テントや医療資機材、災害時の飲料水や食料等を管理しています。また、救護活動を行うために登録された日赤職員（以下救護員と呼びます）のロッカー、更衣室を整備しています。

ロジスティクスセンターには自家発電機が設置されており、停電時でも照明や電源が確保できるようになっています。



ロジスティクスセンター外観



ロジスティクスセンター内／さまざまな救護資材を、用途別に収容

## 電気設備

変電所から直接3系統の配線がきているため、一般の建物と異なり停電の可能性は低いですが、変電所自体が機能を失った場合に備え、病院内にコージェネレーションシステムや非常用発電機を設置しています。電気やガスの供給が完全に停止した場合でも、約3日間は病院の電源を確保することができます。



コージェネレーションシステム



非常用発電機／停電後約40秒以内で起動

## 給水設備

鶴見の貯水池より耐震構造の水道管が敷設されており、断水する可能性は低いですが、万一外部からの水が供給停止になった場合に備え、院内にある940トンと120トンの貯水タンクに水を確保しています。

また、給水対応として2本の井戸から1日300～400トンの水が利用できる設備があるため、院内で断水しない構造となっています。



貯水タンク



井水システム／日常点検を経て、普段から井水を使用

## 通信機器

日赤は災害等専用の業務用無線の電波を割り当てられています。当院から梅田ぐらまで、約5kmの範囲で通信可能な携帯型無線機を10台と、当院から南港ぐらまで、約10kmの範囲で通信可能なポータブル型無線機が2台、当院から神戸市ぐらまで、約30kmの範囲で通信可能な無線基地局を救援部と防災センターに配備しています。

その他、救援部では約1kmの範囲で通信可能な50台の業務用簡易無線機と、人工衛星を介して通信することができる10台の衛星電話を常に充電し、すぐに使える状態にしています。電話は5本の災害優先回線を保有し、これ以外に救援部に災害優先回線の携帯電話を6台保有しています。



業務用簡易無線機



携帯型無線機／日赤独自の周波数で通信

# Hospital functions against disasters

## 食料の備蓄

入院患者さん用に約1週間分以上の食料を備蓄しているほか、職員用の食料約1,500食、飲料水ボトル5,000本前後を常時備蓄しています。非常用とはいえ、できるだけ栄養バランスの取れた組み合わせで提供できるよう、計画的に食品を選定しています。



入院患者さん用備蓄倉庫



非常食を備蓄／  
栄養やメニューにも気を配ります

## dERU(国内型緊急対応ユニット)

dERU(domestic emergency response unit)と呼ばれるもので、他府県が被災した場合に緊急出動し、現地で診療活動を展開できる資機材をユニットにして保管しています。トラック数台にユニットを積んで現地に行き、そのままテントを展開してクリニックを開くためのあらゆる機材、物品を装備しています。

現在では、レントゲン室、手術室、ICU、病棟、事務所、要員の宿泊棟なども整備し、ホスピタルdERUとして病院レベルにまで機能を拡張できる体制を整えています。当院が被災した場合には院内敷地で展開することができます。



ホスピタルdERU全景



dERU外来棟内／  
照明や空調も自家発電機で自立

## 緊急車両

通常の病院業務で使用する救急車1台、ドクターカー1台の他に、災害救援専用のトラック3台、救護員派遣用マイクロバス型救急車1台を院内に保管しています。

救護員派遣用マイクロバスには医療資機材とともに非常食や飲料水も常に積んでいます。緊急車両はいざというときにガソリン切れやバッテリー上がりがないように専任の職員が管理しています。



dERU車両



緊急車両／  
被災地では救護員の仮眠場所  
になることも

## 救護班用医療セット

救護班が使用する医療セットとして、あらかじめ薬剤を含む医療資機材のセットを組んでおり、発災から約24時間以内の診療に適応した超急性期用のバッグ3セットを2組、発災24時間以降の診療に適応した急性期用のバッグ4セットを4組、ロジスティクスセンターに配備しています。薬剤は専任の薬剤師が管理し、いつでも使用できる状態で保管されています。



救護用医療セット



普段はロジスティクスセンター内にあり、いつでもすぐに持ち出しができるよう整備されています

## 救護員

常時100名前後の救護員を登録しており、365日24時間いつでも携帯メールで招集し、出動できる体制を構築しています。これら救護員のメンバーは、平時においても各種の研修や災害訓練に参加し、災害に備えています。ロジスティクスセンター内にある個人ロッカーには、常に3日分の日用品とユニフォーム一式を入れ、いつでも出動できる体制を整えています。

また、事務職員はトラックを運転できるよう免許取得の支援を行い、現在、約20名の病院職員が中型、大型免許を持っています。



被災者に寄り添う赤十字



自治体の訓練に参加／  
消防などと連携して被災者を  
受け入れます

最後に、これらのさまざまな対策を最大限に発揮できるかどうかは、病院最大の資源である職員にかかっています。救護員をはじめ、病院職員全体の意識をさらに向上させるべく、今後も努めてまいります。

# 途上国支援活動のいろいろな形態

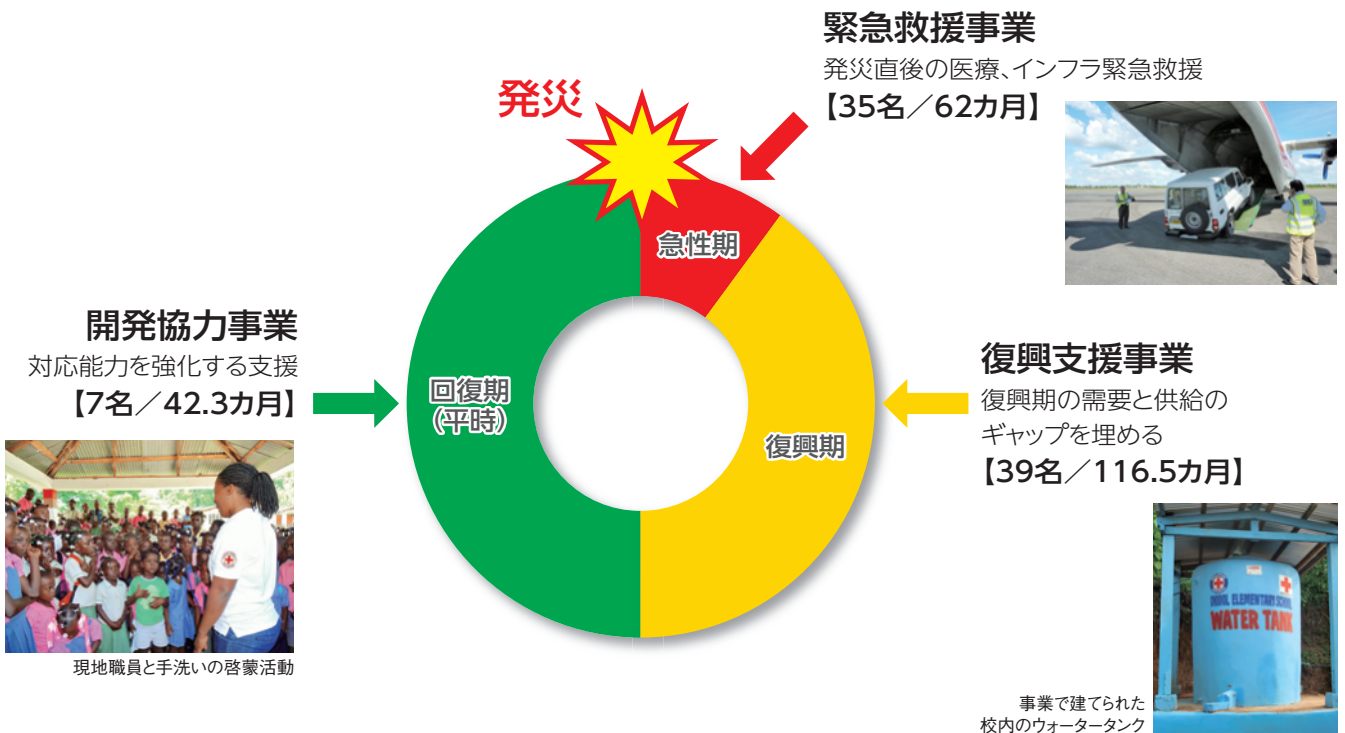
## — 災害サイクルと支援 —

海外、特に途上国で大災害が発生すると、世界中からさまざまな救援チームが入り、活動しますが、これはメディアなどでよく取り上げられるので、一般の方々もイメージが湧くと思います。しかしながら災害は一旦起こると、そこからの復興に各分野甚大な努力が必要となることは、東日本大震災後を見てもおわかりでしょう。途上国においてはこれが一層顕著になります。さらに平時においては、防災能力の強化が求められます。なぜなら、途上国での大災害というのは、同じ国で同じタイプの災害が繰り返されることが多いからです（災害多発国）。

支援側はこのサイクルを理解し、発災したときだけ救援チームを送るのではなく、その後の復興期には、悪化した衛生環境の立て直しや、住民の衛生、健康に関する教育、啓蒙活動などのもっと基本的な部分の支援が継続して必要となります。さらに災害発生前からその国の防災能力の強化ができれば、次の災害への備えとなります。被災前の状態に戻すのではなく、もう少し上のレベルにまで引き上げるとというのが最近の災害支援の目標になっています。

ところが、復興期や平時の海外支援は緊急救援とは異なり、いろいろな意味でより困難です。なぜなら、発災直後に比べ世間の注目が減り、お金も集まらず、また直接の医療支援とは別のノウハウが必要であること、それに、職員も緊急救援とは比較にならないくらい長期間派遣しなければならないからです。当院は、国際赤十字の一員として他団体がやらない支援も引き受け、ノウハウを蓄積するとともにその体制も整えています。

2000年以降の当院の支援を災害サイクルに当てはめると、下図のようになります。時間のかかる復興期の支援に、緊急救援よりも多くの職員を長期間投入していることがわかります。



# 国際救援事業

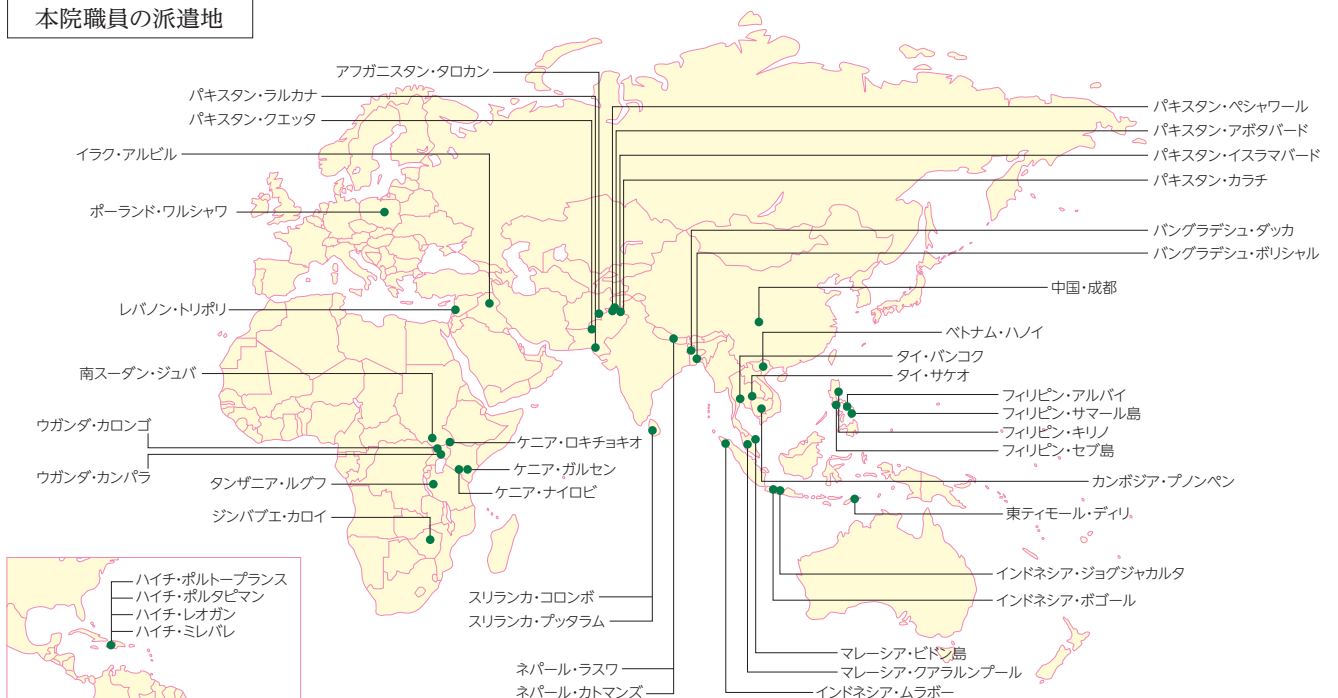
1914年から始まった、大阪赤十字病院の海外救援のうち、過去10年間の派遣実績です。

## 本院職員過去10年間の海外派遣(2005年～)

派遣期間	活動対象(災害・紛争名など)	国・地域	派遣者職種	
1 2005.10月～12月	2ヵ月 緊急救援	パキスタン北部地震	パキスタン・アボタバード	医師
2 2005.11月～12月	2ヵ月 緊急救援	パキスタン北部地震	パキスタン・イスラマバード	事務職員
3 2005.11月～12月	2ヵ月 緊急救援	パキスタン北部地震	パキスタン・イスラマバード	事務職員
4 2006.5月～6月	1ヵ月 緊急救援	ジャワ中部地震	インドネシア・ジョグジャカルタ	医師
5 2006.7月～2007.2月	6ヵ月 復興支援	スマトラ沖地震	スリランカ・コロンボ	事務職員
6 2006.8月	1ヵ月 難民支援	タンザニア難民支援	タンザニア・ルグフ	看護師
7 2006.11月～2007.5月	6ヵ月 開発協力	フィリピン保健医療支援	フィリピン・キリノ	看護師
8 2006.12月～2007.2月	2ヵ月 緊急救援	ケニア洪水	ケニア・ガルセン	看護師
9 2006.12月～2007.1月	1ヵ月 緊急救援	ケニア洪水	ケニア・ナイロビ	検査技師
10 2006.12月	1週間 緊急救援	フィリピン台風被害	フィリピン・アルバイ	看護師
11 2007.5月～7月	2ヵ月 開発協力	インドネシア医療支援	インドネシア・ボゴール	医師
12 2008.1月～12月	12ヵ月 復興支援	スマトラ沖地震復興支援	スリランカ・プッタラム	看護師
13 2008.6月	10日間 事業調査	スマトラ沖地震復興支援調査	スリランカ・プッタラム	医師
14 2008.6月	10日間 事業調査	スマトラ沖地震復興支援調査	スリランカ・プッタラム	看護部長
15 2008.6月	10日間 事業調査	スマトラ沖地震復興支援調査	スリランカ・プッタラム	事務職員
16 2008.5月～6月	2ヵ月 緊急救援	中国四川省地震	中国・成都	事務職員
17 2008.12月～2009.1月	1ヵ月 緊急救援	ジンバブエ・コレラ禍	ジンバブエ・カロイ	事務職員
18 2009.1月～2月	1ヵ月 緊急救援	ジンバブエ・コレラ禍	ジンバブエ・カロイ	医師
19 2009.1月～2月	1ヵ月 緊急救援	ジンバブエ・コレラ禍	ジンバブエ・カロイ	看護師
20 2009.2月	2週間 開発協力	インドネシア医療支援	インドネシア・ボゴール	医師
21 2009.3月	10日間 事業調査	ネパール山岳部保健調査	ネパール・ラスワ	医師
22 2009.3月	10日間 事業調査	ネパール山岳部保健調査	ネパール・ラスワ	看護部長
23 2009.3月	10日間 事業調査	ネパール山岳部保健調査	ネパール・ラスワ	事務職員
24 2009.4月	3週間 開発協力	北イラク戦傷外科病院支援	イラク・アルビル	医師
25 2009.4月～12月	7ヵ月 復興支援	バングラデシュ・サイクロン被害	バングラデシュ・ポリシャル	看護師
26 2009.7月	9日間 事業調査	バングラデシュ・サイクロン被害調査	バングラデシュ・ポリシャル	医師
27 2009.7月	9日間 事業調査	バングラデシュ・サイクロン被害調査	バングラデシュ・ポリシャル	看護部長
28 2009.7月	9日間 事業調査	バングラデシュ・サイクロン被害調査	バングラデシュ・ポリシャル	事務職員
29 2009.12月～2010.6月	6ヵ月 その他	アジア太平洋地域事務所活動支援	マレーシア・クアラルンプール	事務職員
30 2009.11月	10日間 復興支援	ウガンダ内戦復興支援調査	ウガンダ・カロンゴ	医師
31 2009.11月	10日間 復興支援	ウガンダ内戦復興支援調査	ウガンダ・カロンゴ	事務職員
32 2010.1月～2月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	医師
33 2010.1月～2月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	看護師
34 2010.1月～3月	3ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	事務職員
35 2010.2月～3月	2ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	医師
36 2010.2月～3月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	看護部長
37 2010.2月～3月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	看護師
38 2010.2月～3月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	事務職員
39 2010.4月～5月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ大地震	ハイチ・ポルトープランス	事務職員
40 2010.4月～7月	3ヵ月 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
41 2010.6月～2011.1月	7ヵ月 緊急救援	パキスタン北部紛争	パキスタン・ペシャワール	看護師
42 2010.8月～9月	1ヵ月 復興支援	ハイチ大地震復興支援	ハイチ・ポルトープランス	事務職員
43 2010.8月～9月	1ヵ月 緊急救援	パキスタン洪水	パキスタン・カラチ	看護師
44 2010.8月～9月	3週間 緊急救援	パキスタン洪水	パキスタン・イスラマバード	事務職員
45 2010.8月～10月	3ヵ月 緊急救援	パキスタン洪水	パキスタン・ラルカナ	事務職員
46 2010.10月～2011.1月	4ヵ月 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
47 2010.11月～2011.2月	3ヵ月 緊急救援	ハイチ・コレラ禍	ハイチ・ポルトープランス	事務職員
48 2011.1月～2月	1ヵ月 緊急救援	ハイチ・コレラ禍	ハイチ・ポルトープランス	看護師
49 2011.1月～2月	1.5ヵ月 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
50 2011.1月～7月	7ヵ月 復興支援	ハイチ大地震復興支援	ハイチ・レオガン	看護師
51 2011.10月～12月	1.5ヵ月 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
52 2011.12月	9日間 事業調査	ウガンダ北部母子保健/病院支援	ウガンダ・カロンゴ	医師
53 2012.2月～2013.3月	13ヵ月 復興支援	ハイチ大地震復興支援	ハイチ・レオガン	看護部長
54 2012.2月	10日間 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	事務職員
55 2012.3月	1ヵ月 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
56 2012.5月～7月	3ヵ月 復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
57 2012.9月～2013.10月	13ヵ月 復興支援	ハイチ大地震復興支援	ハイチ・レオガン	看護師

派遣期間	活動対象(災害・紛争名など)	国/地域	派遣者職種			
58	2012.9月	2週間	開発協力	ネパール給水衛生事業	ネパール・カトマンズ	看護師
59	2012.10月	10日間	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	事務職員
60	2012.10月~12月	2ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
61	2012.11月~12月	9日間	事業調査	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
62	2012.11月~12月	16日間	事業調査	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	事務職員
63	2013.3月	6日間	事業調査	ベトナム医療支援事業	ベトナム・ハノイ	医師
64	2013.3月	6日間	事業調査	ベトナム医療支援事業	ベトナム・ハノイ	検査技師
65	2013.3月~5月	2.5ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
66	2013.7月~9月	2ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
67	2013.9月~10月	10日間	開発協力	バングラデシュ給水衛生事業	バングラデシュ・ダッカ	臨床工学技士
68	2013.10月~11月	1ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
69	2013.10月~2014.1月	4ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
70	2013.10月	3週間	事業調査	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	看護師長
71	2013.10月~2015.10月	24ヵ月	開発協力	東ティモール赤十字社組織強化事業	東ティモール・デシリ	事務職員
72	2013.11月~2014.9月	9ヵ月	その他	アジア太平洋地域事務所活動支援	マレーシア・クアラルンプール	事務職員
73	2013.12月	2週間	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	事務職員
74	2013.12月~2014.1月	1ヵ月	緊急救援	フィリピン中部台風被害	フィリピン・セブ島	看護師長
75	2014.1月~2月	1ヵ月	緊急救援	フィリピン中部台風被害	フィリピン・セブ島	臨床工学技士
76	2014.2月~6月	3ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	看護師長
77	2014.3月~9月	6ヵ月	開発協力	フィリピン保健医療支援	フィリピン・キリノ	看護師
78	2014.4月~7月	3ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	薬剤師
79	2014.5月	1ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
80	2014.8月~2015.8月	12ヵ月	復興支援	ハイチ・コレラ衛生促進事業	ハイチ・ポルトープランス	事務職員
81	2014.8月~11月	3ヵ月	緊急救援	シリア難民救援事業	レバノン・トリポリ	看護師
82	2014.12月	2週間	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カンバラ	事務職員
83	2014.12月	10日間	緊急救援	フィリピン台風救援事業	フィリピン・サマル島	看護師
84	2015.1月~5月	4ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	医師
85	2015.1月~6月	5ヵ月	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業	ウガンダ・カロンゴ	看護師
86	2015.2月	2週間	事業調査	東ティモール衛生教育事業調査	東ティモール・デシリ他	医師
87	2015.2月	2週間	事業調査	東ティモール衛生教育事業調査	東ティモール・デシリ他	看護師
88	2015.2月	3週間	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業評価	ウガンダ・カロンゴ	薬剤師
89	2015.2月~3月	3週間	復興支援	ウガンダ内戦復興医療事業評価	ウガンダ・カロンゴ	看護師

本院職員の派遣地



2014年 派遣レポート 2014年の派遣レポートの一部をご紹介します。

ウガンダ北部病院外科支援事業

- 2014年5月4日～5月27日(医師)
- 2015年1月21日～5月20日(医師)

この事業は、ウガンダの20年余りに渡った内戦後の復興支援として2010年4月から続いており、本年1月から4カ月の予定で赴任しています。外科支援を行っている病院は、首都カンパラから車で9時間余りの場所にあり、この地域の人口80万人に対する唯一の病院です。スタッフは一般医が5名のみ、当院医師は外科専門医として外科医1年目の現地医師と日常業務を担当します。76床の外科病棟には、外傷、熱傷、感染症(膿瘍形成)、急性腹症などの新入院が引きも切らない状況です。検査手段が

格段に乏しいため、手術適応の判断には自分の五感と経験をフルに稼働させる必要がありますが、ときには悔しい思いをすることもあります。乾季のため30度を超える手術室の中で、不十分な手術機材を用いながら現地医師の教育も兼ねて行う手術は時として困難をきわめますが、現地の医療事情を考えると当院医師が果たしている役割は非常に重要であり、やりがいのある毎日です。



病院正面から裏山をみる



当院医師が現地若手医師と手術

ウガンダ北部病院支援事業(薬剤師)

- 2014年4月18日～7月24日(薬剤師)
- 2015年2月7日～2月25日(薬剤師)

ウガンダ北部医療支援における薬剤師の活動内容は、院内における薬品管理の向上と、配薬システムの構築(ユニットドーズシステム)のサポートです。以前の配薬システムは、薬局から病棟へ箱単位で一括して薬を届け、そこから看護師が処方された薬を患者さんに投薬する、という形式でした。薬剤師の目を通っていないので、処方間違いの投与やボトルの取り間違いによる誤投薬の危険性がありました。また、病棟の配置薬管理は、薬品数が多いことから適切になされておらず、たくさんの不要な薬が

病棟に置かれ、有効に使用されていない状況でした。

そこで、患者さん個人への薬のパッキング(ユニットドーズシステム)を薬剤部で行うこととし、病棟に置いてある不要な薬を撤去、薬剤部で一括集中管理するなど、より安全な投薬を行うことができるよう現地薬剤部スタッフと協働してきました。まだすべての病棟にユニットドーズシステムが導入されていませんが、導入済みの病棟では、おおむね良好に運用され、不要な病棟在庫削減・医療安全向上に貢献しています。



現地職員と薬剤チェック



整理された薬品倉庫

## シリア難民救援事業

● 2014年8月9日～2014年11月12日 (看護師)

2011年に始まったシリア紛争では非常に多くの犠牲者や難民が出ています。レバノンの人口約450万人に対し、既に110万人を超える難民を受け入れている最大のシリア難民受け入れ国です。

赤十字国際委員会(ICRC)はレバノン北部の地元の病院施設の一部を借り、トリポリ武器創傷外科センターを開設し、シリア難民を中心に、特に再建手術を必要とする負傷者を受け入れています。

日赤では、この病院の立ち上げを支援してきましたが、レバノン

では看護師の数が極端に少なく、スタッフを確保したり、元々の病院とICRCとが連携するためのシステムを確立したりすることに奔走しました。ようやく9月の半ばに、初めての患者さんを受け入れることができました。幾度にもわたる再建手術を受け、自分の足で歩いて退院できる患者さんを見ることができたときは、本当にやったという気持ちになりました。



地元病院の二階部分がICRCの病院



スタッフと患者さんのことについて話し合い



入院患者さんとともに

## ハイチ・コレラ衛生促進事業

● 2014年8月20日～2015年8月21日 (事務職員)

ハイチはカリブ諸国の最貧国であるうえ、5年前の大地震で壊滅的な被害を受け、未だ復興途上にあります。上下水道の設備は一部でしか整っておらず、毎年8月から11月の雨期は特にコレラの脅威にさらされています。

2014年7月から、インフラ設備が首都よりも劣悪なハイチ中央県において、コレラの発生率が減少することをめざした衛生促進事業を開始しました。事業地のほとんどの村は山間部にあり、交通の便が悪く、一旦コレラを含めた病気にかかるると近くの保健所まで行くのもかなり時間がかかります。そのため、病気

予防がますます欠かせません。同地域は今回初めて支援を受ける村がほとんど

で、地域の人たちは私たち事業スタッフを歓迎してくれています。

2015年から事業は本格化し、ハイチの現地スタッフが地域のボランティアに対してトレーニングを実施し、その後ボランティアが自分の村で正しい手洗いやトイレの使い方といった基本的な衛生に関する知識の啓発活動を実施する予定です。2010年から4年間レオガン地域で実施した保健と給水衛生事業の経験を生かし、また、地域の人たちが自分たちでできる範囲での活動を実施することで、事業終了後も活動が持続することが目標です。



常に現地の人々が主役で、それを支える立場で支援しています



コミュニティへ行く途中



現地職員と手洗いの啓蒙活動



## フィリピン保健医療支援事業

● 2014年3月28日～10月8日(看護師)

この支援は、2005年からフィリピン・キリノ州において、地域保健ボランティアの育成や保健医療施設の建設、給水システムやトイレの整備を行い、公衆衛生環境の改善を支援してきました。

地域住民自身による健康管理能力とフィリピン赤十字支部の組織基盤を強化することで、日本赤十字社の支援が終わった後も、住民自身の手で健康を守る活動を継続できることを目標に掲げ、行ってきた活動です。当院からはこの事業に2人目となる要員を派遣しました。

小学校のトイレ改修や、ボランティアの活動状況のモニタリングを行い、インフラ整備と知識の普及両方が、健康的な生活を送るために必要なことを肌で感じることができました。また、住民調査(事業開始時にも同じ調査を行っている)を行い、事業に一定の成果があったことが確認できました。この結果、キリノでの事業は2014年9月に終了し、現在は隣のヌエヴァヴィスカヤ州で同様の活動を継続中です。



ボランティアの技術チェック



日赤が作った学校のトイレ



住民の事業評価のための調査

## フィリピン台風救援事業

● 2014年12月12日～2014年12月21日(看護師)

2013年の11月にフィリピンを巨大台風ヨランダが襲い甚大な被害が出た際、日赤は緊急救援活動を行いました。活動を終了する際には日赤の所有する災害時緊急対応の基礎保健型緊急対応ユニットをフィリピン赤十字社に寄付しました。その後もフィリピン赤十字社のスタッフやボランティアにトレーニングをするなど、継続的なフォローアップを行ってきました。

1年後に再び台風がセブ島北東部を直撃し、フィリピン赤十字社は日赤が寄贈した資器材を使用して活動を行うことになりました。自社で行う初めての緊急救援活動だったため、活動の立ち上

げ支援に、2013年に看護師長として活動した当院の看護師を1名派遣しました。

現地では、テントの設営場所や、活動方針の決定、実際の診療活動を行う上での助言等を行いました。前回の巨大台風のときに一緒に活動したボランティアの方が、今回はヘルス部門のリーダーとして働いており、久しぶりの再会もありました。ともに活動を行い、改めてフィリピン赤十字社の緊急対応へのキャパシティが上がっていることを実感し、これからの国際救援活動の方向性についても考えさせられるものでした。



ときには傷の手当てを指導



救援活動を行うフィリピン赤十字スタッフ



日赤のBHC-ERU資器材を用いたフィリピン赤十字の診療テント

## 東ティモール赤十字社組織強化事業

● 2013年10月16日～2015年10月16日(事務職員)

この事業は、2000年に設立されたばかりの非常に若い赤十字社である東ティモール赤十字社を、日赤が職員を送って組織全体の支援をするものです。

現在、東ティモール赤十字社は、紛争による離散家族支援、給水衛生、災害対応、エイズの知識の普及、救急法指導などの幅広い分野で活動を行っていますが、同社が弱い立場にある人々への継続的な支援を行うことができる「強い赤十字社」に

なるためには、青少年赤十字やボランティア組織の拡充、支部機能の充実、さら

には他国赤十字社からの支援に頼らず自立した運営を実施するための独自財源の確保が必要です。これらの組織強化のため、当院から経験豊富な職員を1名、1年間派遣していましたが、さらに派遣期間を延長し、東ティモール社を全般的に支援しています。かつての紛争後状態を脱した東ティモールは、ゆっくりではあるものの着実に発展へと向かって歩み続けています。



竣工したばかりの新社社屋で開催された長期戦略策定会議



13県すべてで開催されたCVTL支部総会



政府主催の災害訓練に協力するボランティア

## 番外編

### 映画のアフリカロケ医療監修

● 2014年11月17日～12月4日 ● ロケ地: ケニア・ナイロビ他

2015年3月14日に東宝系で公開された「風に立つライオン」のケニアロケに医療監修として医師1名を派遣しました。ご覧になった方もおられるかもしれませんが、この映画は主人公の医師が日本からケニアに渡り、ケニアの赤十字戦傷外科病院で働くというもので、この戦傷外科病院のロケに約3週間帯同しました。現場では戦傷外科病院の設備や器材、手術内容や使用する器具などのアドバイス、



©2015「風に立つライオン」製作委員会  
大沢たかおさんに頸動脈の触れ方を示している

戦傷の特殊メイク、主演の大沢たかおさんや石原さとみさんへの技術指導等のお手伝いをしました。いつもの救援活動とは異なる業務でしたが、違う職種のプロフェッショナルとの仕事は刺激的でした。



©2015「風に立つライオン」製作委員会  
監督とモニターチェック



©2015「風に立つライオン」製作委員会  
石原さとみさんとダイアログコーチとセリフの打ち合わせ

### 国際活動看護師の留学支援

● 2013年9月26日～2015年1月28日 ● イギリス・ロンドン

当院の休職制度を活用し、2013年よりイギリスのロンドン大学衛生学熱帯医学大学院で約1年半、公衆衛生について学びました。当大学院では毎年約700名の学生が公衆衛生や国際保健を学びに世界各地から集まります。私が専攻したコースは、開発途上国における保健政策、保健医療システム、感染症のコントロール等について学びます。初めて学ぶ内容、英語での講義やディスカッション、想像していた以上に大変な毎日でしたが、最先端で活躍されている専門家から直接学び、さまざまな背景の方々と討論を交わし、非常に刺激的な時間を過ごしました。世界各地に友人ができたこともこの1年半の大きな収穫です。



大学の玄関前で

2015年2月から当院に復帰しています。修士で得られた学びを今後どう現場に活かしていくか…、さらなるチャレンジが続きます!



さまざまな文化が混在。ラマダン明けのお祭りに友人と参加

# 大阪赤十字病院の国内救護活動

～すべては災害被害を減らすために～

## 救護員の育成

大阪赤十字病院では、災害に対してすぐに救護班を派遣し、被災地の支援を行えるよう、毎年100名以上の救護員を病院の職員から選出し、研修や訓練を行っています。

### 研修

年間を通じて救護員の研修を行っています。まず、オリエンテーションで、医師、看護師、事務を中心に、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床心理士などから選出された救護員に、救護活動の概要について説明するとともに、着用する救護服の確認や研修の日程調整を行います。

6月の救護員基礎研修では、災害医療の特徴やトリアージの方法、通信機器の使い方、救護所での活動の方法などを講義や実習で習得します。7月のステップアップ研修では、実際に被災地で用いる大型の救護テントを用い、救護所の展開・撤収方法の訓練するとともに、医師や看護師、事務などの職種ごとに分かれて、それぞれの専門分野に関する技術を高めます。10月のこころのケア研修では、被災者に支援をする際に配慮すべき事柄、救護員自身の精神的ケアに関する心得を学びます。また、日赤本社や行政、救護関連機関が開催する研修にも積極的に職員を派遣し、救護活動に関する最新の動向を取り入れるよう努めています。

### 訓練

災害を想定した救護訓練に参加することで、現場に対応した実践能力を身に付けます。平成26年度は計6カ所の訓練に参加しました。

5月の近畿2府4県の日赤施設が一同に会して訓練を行う日本赤十字社第4ブロック合同災害訓練をはじめ、9月は大阪市が主催する総合防災訓練、10月は関西国際空港にて航空機事故の消火救難総合訓練、11月は国土交通省が主催する大規模津波が発生した想定の方訓練、1月は堺市が主催する防災総合訓練や海上保安庁主催の洋上救急慣熟訓練など、さまざまな訓練に参加しています。



●大型テントを展開



●傷病者への処置を確認



●タイヤチェーンを実際に装着



●こころのケアについて話し合います



●日赤第4ブロック合同災害訓練/  
訓練前に全体で打ち合わせ



●大阪市総合防災訓練/  
防災機関と協働



●関空航空機事故消火救難総合訓練/  
テント内で処置中



●堺市総合防災訓練/  
いざ被災現場へ

## 大阪で大地震が発生！病院の災害訓練

当院では平成17年から毎年、大規模な地震を想定した災害訓練を実施しています。災害という非常事態が突発した場合、いくらよい防災施設を整え、いくらきちんとしたマニュアルを整備していても、肝心の職員の常日頃の防災意識がなければ、とてもではないですが対応することができません。結局はそこにいる「人」が最も重要なのです。

しかも、異常事態に病院が病院として機能するには、一部の職員だけが防災に熱心であっても意味がなく、すべての職員が、等しく災害に対する意識を共有していなければなりません。これはとても難しいことです。



災害対策本部／すべての情報を集約し、スライドに映写



高所作業車で被災者を救助

このため、当院の災害訓練は平日に通常業務を外来診療から、院内諸検査、手術室まですべて休止、災害時と同じ状況にして全職員が参加します。数百名の模擬被災者が、趣旨に賛同する防災機関（大阪市消防局、大阪府警、陸上自衛隊など）に救出され、病院に運ばれます。職員も含めて参加機関は状況を事前に知りませんので、本番と同じ状態で行うことになります。場合によっては、救出されない模擬被災者が出ることもあります。病院では全館あげて災害体制に移行し、運ばれてくる、あるいは歩いてくる被災者に対し、必要であれば検査を行い、手術をして入院をさせます。訓練当日は、患者さんには多大なご迷惑をおかけしますが、病院として、いざというときに皆さまを守る防災能力を高めることを目的として実施しておりますので、ご理解のほどお願いいたします。



緑エリア／被災者の声に耳を傾けます



黄エリア／被災者の痛みに注意しながら治療します



手術室／被災者の救命のために



病棟／停電しても患者さんへのケアは変わりません



車両中から救助する消防隊員、警察署員



トリアージエリア／被災者を手際よく受け入れます

## 大阪赤十字病院の防災対策

地域の皆さまとの連携のため、親子で体験できる防災セミナー「災育」を開催しています。

### 親子の防災体験セミナー

## 「さいいく 災育」 ■ 2015年8月2日(日)開催〈無料〉

「地震に備えて、何をしておけばいいの?」「地震が起こったらどこに避難したらいい?」「もしケガをしたら、だれかが助けてくれるの?」

お子さんやお孫さんから、そんな疑問についてご家庭で話をされる機会がありますか? 親子の防災セミナー「災育」では、そんな疑問について考える機会を提供しています。

実際、大災害という想定外の事態に対処するために、消防や病院等がいくらがんばっても、自然災害はその能力をはるかに超えてしまいます。市民の皆さま全員が、普段から防災の意識を高め、災害に立ち向かわなければどうにもなりません。

当院では、地域の皆さまと防災の意識を共有するために、毎年8月第一日曜日に、病院敷地を開放して多くの防災機関とともに、体験型の公開セミナーを無料で行っています。対象は、小学校4~6年生とそのご両親、ご家族です。災害に関する講義や身近なものを使った応急手当、AED体験、無線体験や救護倉庫内の見学等の他、防災機関からも出展され、例年500名以上の方々に賑わっています。

今年は8月2日(日)を予定しています。6月中旬にチラシや当院ホームページでご案内いたしますので、ぜひご参加ください。



はしご車体験。玄関のヤシの木が見下ろせます



白バイに乗って記念撮影。「その車、止まりなさい!」



三角巾は腕だけでなく、どんな部位にでも使えます。明日から自分でもできるね



被災時の講義は4回実施。いつも満席!



人形で心肺蘇生。けっこう力があるんですね



国内屈指のロジスティクスセンター。ここでしか見られない資機材も



自衛隊の屋外手術システム。重厚感と設備内容に目を見張ります

本院職員過去10年間の国内救護派遣(2005年～)

1909年に開始された本院職員の国内救護のうち、過去10年間の活動をご紹介します。

派遣年・月	活動対象(災害・イベント名など)	場 所	派遣者職種(救護班数など)
1 2005.4月	緊急救援 JR福知山線列車事故	兵庫県尼崎市	救護班1チーム
2 2005.7月～2005.8月	臨時救護 EXPO 2005 愛知万博	愛知県瀬戸市	医師1名、看護師2名、事務職員2名
3 2005.10月	臨時救護 御堂筋パレード 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務職員2名
4 2006.10月	臨時救護 御堂筋パレード 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務職員2名
5 2007.7月	緊急救援 新潟県中越沖地震	新潟県刈羽村	救護班1チーム
6 2007.8月～2007.9月	臨時救護 IAAF世界陸上選手権	大阪府大阪市	救護班24チーム
7 2007.10月	開発協力 御堂筋パレード 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務職員2名
8 2008.6月	臨時救護 G8 財務相会合 大阪	大阪府大阪市	救護班3チーム
9 2008.10月	臨時救護 ハート大阪秋まつり(御堂筋Kappo)	大阪府大阪市	救護班2チーム
10 2009.8月	緊急救援 台風9号大雨災害	兵庫県佐用町	救護班1チーム+こころのケア要員
11 2009.10月	臨時救護 御堂筋Kappo 2009 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務1名
12 2010.10月	臨時救護 御堂筋Kappo 2010 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務1名
13 2011.3月～4月	緊急救援 東日本大震災	宮城県仙台市	救護班6チーム
14 2011.4月～2011.5月	緊急救援 東日本大震災	岩手県山田町	救護班11チーム+こころのケア要員
15 2011年3月～2012.3月	緊急救援 東日本大震災	宮城県石巻市	医師ほかのべ22名
16 2011.5月～7月	緊急救援 東日本大震災	岩手県宮古市	こころのケア要員5名
17 2011.5月	緊急救援 東日本大震災	岩手県大槌町	介護福祉士1名
18 2011.8月	緊急救援 台風12号水害	奈良県吉野町	救援物資配送
19 2011.10月	臨時救護 御堂筋Kappo 2011 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務1名
20 2012.3月	臨時救護 大阪サイクルイベント 救護所	大阪府大阪市	医師4名、看護師8名、事務2名
21 2012.10月	臨時救護 御堂筋Kappo 2012 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務1名
22 2013.3月	臨時救護 天王寺区避難所開設・運営訓練	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務2名
23 2013.4月	臨時救護 御堂筋Kappo 2013 救護所	大阪府大阪市	医師1名、看護師2名、事務1名
24 2014.10～11月	医療支援 東日本大震災・避難者健康調査事業	福島県いわき市	看護師1名
25 2015.3月	臨時救護 あそぼうさい in 四天王寺	大阪府大阪市	医師1名、看護師5名、事務5名、検査技師1名、臨床工学技士1名

2014年 派遣レポート

東日本大震災避難者健康調査事業に看護師を派遣

●2014年10月14日～11月14日

東日本大震災の福島第一原子力発電所事故後、多くの方々がいわき市内で避難生活を送っています。役場がいわき市とは別の場所に仮設されているため行政サービス



避難されている方に健康体操を教える看護師

が十分に行き渡らず、また、借り上げ住宅にお住まいの方々は住民同士が集う場も少なく、孤立しやすい状態となっています。避難所生活を送る方々に適切な保健医療サービスや必要なケアが提供されるためには、健康状態の把握が大切です。

当院は、平成26年10月14日から11月14日まで、避難者健康調査事業として看護師1名を派遣しました。派遣された看護師は、避難者宅に戸別に訪問し、聞き取り調査を行った上で、「いわき市での生活は落ち着いてきているが、心の中にある寂しさを穴埋めするのはなかなか難しいこと。そのために誰かと話すことが、町民の皆さんにとってとても重要」と話しています。本事業は全国の赤十字施設と協力し、継続して実施しています。

あそぼうさい in 四天王寺でdERUを展開

●2015年3月15日

大阪市天王寺区役所が主催する遊びながら防災を学ぶイベント、「あそぼうさい」に参加しました。当日は医師1名、看護師5名、事務5名、検査技師1名、臨床工学技士1名、計13名を派遣し、四天王寺の境内でdERU(国内型緊急対応ユニット)のテントを展開、被災地で使用する医療資機材などを実際に手に取ってもらいました。

来場した子どもや保護者からは、「病院みたい!」「こんなテントどうやって建てるの?」「救護バッグってめっちゃ重いよね!」「これってテレビで見たことあるわ、どうやって使うの?」と、興味津々に話を聞いてくださいました。イベントには約2500名の参加がありましたが、幸いけが人もなく無事に終了しました。

当院は、災害時に被災地へdERUを派遣し、医療機能が停止した地域でも診療活動ができるよう備えています。



四天王寺に子どもと保護者が集結! dERU内を見学していただきました

# 派遣職員・派遣を目指す職員からの



## 看護師

将来の国際看護活動をめざし、現在は集中治療部で勤務をしながら救援部の研修や勉強会に参加しています。当院では毎月、国際救援部主催の勉強会があり、また海外で活動されたスタッフが大勢います。刺激をたくさん受けることができるこの環境に感謝しています。今の環境で、自分ができていることをがんばっていこうと思っています。



## 看護師

看護師になりたい、世界で働いてみたい。そういった思いから赤十字病院に就職しました。海外の派遣地での仕事や生活はよくも悪くも日本では考えられないことの連続で、多くの学びがあり視野が広がったと思います。受益者の方にとって、活動を通して少しでもよりよく生きのお手伝いできればと思っています。



## 事務職員

これまで当院の国際活動に関する充実したサポート体制や職場の理解のおかげで、さまざまな国際救援・開発協力事業に携わることができました。現在、活動している東ティモールでは、2000年に設立されたばかりの若い東ティモール赤十字社が、脆弱な人々への支援を独自の力で継続できる強い赤十字社になれるよう、お手伝いをしています。



## 臨床工学技士

2013年11月、フィリピン中部を台風30号が直撃し、日赤はフィリピン・セブ島で3カ月間診療クリニックを展開しました。私は最終班で現地に派遣されましたが、復興をお手伝いするなかで、被災地の人々が笑顔になっていくのがとても印象的でした。臨床工学技士という職種も海外支援で役に立つことがわかり、また、国際活動を通して私自身も成長できたと考えています。



## 看護師

念願だった国際活動に参加し、日々奮闘しています。ウガンダの田舎にある病院に派遣され、病棟の看護師さんたちと一緒に看護の質の向上をめざしています。国境を越えて出会う人々に刺激を受けながら、価値観を共有し働けることが何よりの喜びです。日本の現場とやり方は違うことばかりですが、そこにあるものできることを考えて看護を提供するというスタンスは変わらないと感じています。



## 薬剤師

ウガンダ北部のカロンゴ病院にて薬品管理の向上、およびユニットドーズシステム(1患者さん毎に薬をパッキング)の導入のため3カ月間派遣されました。薬剤師にいったいどんな国際活動ができるんだろう…、と思っていましたが、薬剤師でも活躍の場があるんだ、とうれしく思いました。また、現地の方々とともに働き、さまざまな価値観を共有することも大きな収穫となりました。



## 医師

消化器外科医として研鑽の日々を経て、2015年から国際活動をするため、本院に転勤し、働き始めました。広く世界を感じながら、多くの文化に触れながら、限られた環境の中で自分の力を発揮したいと思います。挑戦の先に、たくさんの発見と成長を得たいです。皆々と支え合いつつ、将来まだ見ぬ誰かに、残せるものがあれば幸いです。



## 看護師

数年勤務後、一度退職し、海外留学しました。東日本大震災時、アメリカにいましたが、さまざまな人種の人たちが「赤十字は、国境を越え医療支援をする最大の機関」と認知し、各国での赤十字への信頼、期待が大きいと痛感しました。帰国後、当院に再就職し、拠点病院ということもあり、派遣経験が豊富な方々から学ぶことも多く、今後の派遣に向け努力していきたいと思っています。



## 看護師

2014年に初めて海外派遣され、フィリピンの保健医療支援事業に従事しました。フィリピンでは、文化やシステムの違いに戸惑うことが多かったのですが、地域住民への防災や救急法の普及などの活動に携わることができました。派遣前は不安が大きかったのですが、アドバイスをくれる経験豊富な先輩方、応援してくれる同僚たちがいてくれるこの環境は魅力的です。国際医療救援の仲間が1人でも増えることを願っています！



## 事務職員

私は今、中米のハイチにいます。赤十字での活動形態は、現地の赤十字社を通じて、協働して事業を進めます。現地の赤十字社のスタッフやボランティアのサポート役となるのです。息の長い支援をめざして、現地の赤十字社が主体的に動けるように支援することが欠かせない視点です。思い通りにいかないことばかりですが、焦らないことも大事なスキルだと日々自分に言い聞かせています。

# メッセージ

## Messages from staff



### 事務職員

普段は事務職員として病院の管理業務に従事していますが、世界各地で発生する災害被災地域での救援活動や、途上国での災害時の備えの強化も私たちに課せられたミッションです。国籍、人種、言語、そして職種の枠を越えたチームで、共通の目的に向かって協力し合えることが赤十字国際活動の魅力の一つです。



### 医師

2006年に当院に赴任後2008年に要員登録し、その後、インドネシア、ハイチ、ウガンダで活動しました。普段は泌尿器科医として勤務して、派遣時には業務を同僚に託して一般外科医として派遣されます。周囲のみんなに感謝です。そしてこの活動に興味のある方はぜひ一緒に!



### 看護師

国際救援に興味があり当院に就職しました。現地での活動は、過酷な環境のなかで文化や言葉の違いもあり大変ですが、同時にやりがいもあります。また、世界中に仲間ができます。私は現在子育て中ですが、今後も活動を続けていきたいと思っています。



### 看護師

2014年はウガンダ、フィリピン、レバノンで、災害や紛争の緊急救援活動、戦後復興の病院支援活動などを行い、私自身はほとんど国内にいませんでした。救援部のなかでは最も古株の看護師ですので、今後も後輩育成に尽力し、みんなが世界に羽ばたいて活躍できるように応援したいと思います。



### 医師

当院理念にもとづき、緊急救援から数年におよぶ開発協力まで、これまで医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、臨床工学技士、事務職員など、さまざまな職種を国境を越えて多くの国に派遣し、国際支援活動を行ってきました。これらの職員の貴重な経験は普段の診療にも役立ち、患者さんに還元されています。



### 看護師

産婦人科病棟で働きながら、海外派遣をめざして病院のスタッフや臨床現場から日々学んでいます。院内スタッフや患者さんの理解のもと、派遣への準備・研修等へ参加させていただける環境に感謝しています。院内で学んだことを派遣先で生かせるように、そして多くを学んで帰って来られるようにがんばります。



### 看護師

結婚を機に国際救援の拠点病院である大阪に移りました。活動の情報がタイムリーに入り、看護師に限らずさまざまな分野で救援に関わるスタッフとの交流が持てる環境に感謝し、派遣の機会をうかがっています。家庭を持っていても海外で活動できる機会はあると思います。周囲の理解と協力を得て、かつ自己研鑽を積みながら準備していく所存です。



### 事務職員

2014年7月より、国際救援課業務ならびにウガンダ北部医療支援事業の国内デスクを担当しています。予期せぬことが頻発し、対応に苦慮することも多々ありますが、業務を通じて、海外派遣ベテラン勢を含めた多くの方々に出会う機会があります。たくさんのお会いによって自身の視野もさらに広がり、とてもやりがいを感じる仕事です。



### 看護師

国際救援活動をやりたいために大阪赤十字病院に就職し、2008年から携わっています。これまでにジンバブエ、バングラデシュ、ハイチ等で活動しましたが、救援活動は常にチャレンジの連続です。途上国での健康問題をより深く理解するために、2013年から1年半、イギリスで公衆衛生を学んできました。今後も現地の皆様と試行錯誤しながら健康問題に取り組んでいきたいと思っています。



### 医師

2015年1月～5月の予定でアフリカ、ウガンダの過疎地にある病院での支援事業に外科専門医として赴任中です。機器や検査に恵まれないなかでの医療は、医師としての能力のすべてが求められます。異なる文化、価値観、医療内容に一喜一憂しながらの充実した毎日です。引き続き現地の医療状況の改善に力を尽くします。



### 看護師

国際救援派遣をめざし、現在、院内外の研修に参加しながら要員としての勉強をしています。当院は国際救援の拠点病院であるため、働きながら派遣をめざすことができるのが魅力です。また、経験豊富な先輩方がたくさん在籍しているので、報告会や勉強会も充実しています。国際救援活動に興味がある方には最適な環境です。



**大阪赤十字病院** 国際医療救援部  
 〒543-8555 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30  
 TEL:06-6774-5111(代表) FAX:06-6774-5131(代表)  
<http://www.osaka-med.jrc.or.jp>